

場所 兵庫県丹波篠山市

面積 0.3151ha

活動目的 「自らの手で自然を守り、大自然の中で人間性の回復や連帯感を高める憩いの場」として開拓したこのサイトで、地域社会と共に生物多様性保全、里山保全につながる活動、自然教育活動など、環境保全活動全般に積極的に参画、実践し、持続可能な社会への貢献を目指す。

サイト概要 「ユニットピアささやま」は、27万㎡（甲子園球場7個分）の広大な敷地のなか、湖畔に建つ宿泊棟や隣接する研修棟に加え、自然の山間に、様々なアクティビティを有し、ご家族やご友人での行楽や学校行事・企業団体研修など、自然との繋がりを満喫しながら、多目的に利用できる宿泊施設である。施設内での自然環境を利用した里山再生活動を2012年からスタートし、ボランティア参加や指導者養成研修などのフィールドとして地球環境問題への貢献を目指し活動している。



- 土地利用の変遷** 1973年に当時の松下電器産業労働組合が「自らの手で自然を守り、大自然の中で人間性の回復や連帯感を高める憩いの場」として開村した休暇村で現在は、その考え方と貴重な財産をパナソニックグループ労働組合連合会が受け継ぎ運営している。
- サイト周辺の環境** 兵庫県丹波篠山市の中心部から車で10分程度に位置する。周辺はコナラ・アベマキ林、アカマツ林、杉ヒノキ植林地からなる山林である。
- アピールポイント** 本サイトは豊かな自然を体験できる場であるとともに宿泊施設を有し、様々な環境活動のハブとしての活用が可能である。今後は、自然共生サイトに認定されることで、地域で活動されているNPOや自治体、行政などとの連携を強化し、環境教育プログラムを開発して企業や学校の受入を積極的に進め、生物多様性に対する社会的な関心を高めていくとともに地域の活性化を行い、豊かな自然を次代へ継承したい。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

元陸軍の射撃訓練場であった谷底部に宿泊・遊戯・運動施設があり、その周辺は山林である。棚田跡も残されており、棚田跡地を里山再生エリアとして生物多様性保全・再生を目標に活動を行っている。また里山再生エリア以外にも多様な生物が生息している。

【主な植生】

コナラ・アベマキ林、アカマツ林、杉ヒノキ植林地
林床には、ヒサカキ、ソヨゴ、サルトリイバラなど

【確認された主な動植物など】

植物、動物（昆虫類など）で多くの絶滅危惧種が確認されている。



写真の説明：申請区域内の里山再生エリア

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

企業の保養地を生物多様性保全の実践や環境教育の場としても活かすユニークな取組で、保全活動、教育普及活動など様々な取り組みを、市民を巻き込みながら展開しています。

【確認された主な動植物など】

植物、動物（昆虫類など）で多くの絶滅危惧種が確認されている。



写真の説明：申請区域内での里山再生活動



写真の説明：申請区域内でのハチミツ採集

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<ul style="list-style-type: none">・サイト内において、地元NPOの知見をいただきながら、針葉樹の適切な間伐、広葉樹への置き換えを行う・草地において、ボランティアと協働での草刈を行い、多様な植物の維持を図る。・棚田跡において、ため池や湿地を保持しつつ、有機栽培を行い、多様な生物の保全を目指す。	<p>【モニタリング対象】 動物・昆虫（両生類，爬虫類，昆虫類等） 維管束植物</p> <p>【モニタリング場所】 ユートピアささやま全域</p> <p>【モニタリング手法】 動物・昆虫：捕虫網およびD型フレーム水生昆虫網を用いた任意調査およびトラップ調査。維管束植物：目視と写真撮影による植物の同定。貴重な植物（おもにRDB掲載植物）の撮影。</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 4月，5月後半～6月前半，7月後半～8月，10月，2月(動物・昆虫)</p> <p>【モニタリング実施体制】 鈴木 真裕氏 (博士：緑地環境科学、所属：大阪公立大学大学院 環境動物昆虫学研究グループ 客員研究員)、道下 雄大氏 (博士：農学、大阪府立大学大学院卒業)によるモニタリング</p>